かけ橋

まだ見ぬ君へ…

まちかど ネットワーク

さまざまな社会奉仕活動をしている㈳富士青年会議所が、再生紙による紙飛行機大会を開催しますので御紹介します。

再生紙による 紙飛行機大会

青年会議所（Junior Chamber=JC）は、「明るい豊かな社会」の実現を同じ理想とした、次代の担い手となる二十一歳から四十歳までの青年指導者の団体で、全国組織のものです。

㈳富士青年会議所は、昭和三十三年に発足し、メンバーは現在百八十四人。四十周年記念を迎える今年度のスローガンは、「新たなる出発（スタート）英知と情熱の輝きで　共（とも）に創（つく）ろう二十一世紀（あす）への未来像（ビジョン）」。このスローガンのもと、恒例の紙飛行機大会、わんぱく相撲、かぐや姫千人大綱引き、献血などの事業のほか、四十周年記念式典と記念事業としてワールドジュニアキャンプを行う予定です。

再生紙による紙飛行機大会は、「紙の街・富士」を全国に発信するとともに、リサイクルの重要性を考えてもらおうと毎年開催し、ことしで六回目。今回はさらに、三世代交流というテーマも掲げ、子供からお年寄りまで幅広く楽しんでもらおうと、多くの参加を呼びかけています。皆さんも、大空に向かって紙飛行機を飛ばしてみませんか。

とき　六月一日（日）
九時から十六時まで

ところ　富士川緑地

種目　一般部門滞空時間競技、一般部門飛行距離競技、ジュニア部門滞空時間競技、ビギナー部門滞空時間競技、折り紙飛行機飛行距離競技の五種目

定員　一般部門各二百人、その他各百人（先着順）

申し込み・問い合わせ　直接または電話で富士青年会議所事務局（富士商工会議所二階）へ
☎五三－三三六六

※当日、紙飛行機のつくり方・飛ばし方教室も行います

ズームアップ ふじ

忍び寄る覚せい剤の影（3）

恐ろしい依存症

「覚せい剤の使用は、身体に害がある」ということは、だれもが漠然とながらもわかっていることでしょう。しかし、覚せい剤使用の本当の恐ろしさは、意外と知られていないものです。

覚せい剤を使用すると、眠気や疲労感がなくなり、気分が高揚し、頭がさえたような感覚になります。しかし、それは一時的なもので、薬の効果が切れると、激しい疲労感や不安感に襲われます。そこで、これらの不快感から逃れようとしたり、最初に味わったいい気分を求めたりするようになります。これを「精神的依存症」と言います。また、使用をやめると、発熱したり関節が痛んだりするようになります。これを「身体的依存症」と言います。

このような依存症になると、いくら使用をやめて病院で治療を受けたとしても、完全に治癒することが難しくなります。ほぼ、正常な状態にまで回復していたにもかかわらず、ストレスや睡眠不足などが原因で、突然幻覚や妄想などの異常体験が再現されてしまうことがあります。これを「再燃現象」と言います。

覚せい剤使用の本当の恐ろしさは、この再燃現象が後々まで残るということです。使用しなくなれば、治ると考えられがちですが、それは明らかに間違いです。しかも、依存症になる程度は人によって異なり、一回の使用でも依存症に陥ってしまうこともあります。「一回だけなら大丈夫」「いつでもやめられる」と、覚せい剤を甘く見てはいけません。たった一度きりの使用でも、大きな代償を支払わなくてはならなくなるのです。

若者たちをねらう覚せい剤の魔力（本文とは関係ありません）